

## 命からがら日本に 引き揚げて来ました

私は大阪家庭瓦斯株式会社を前身として、さまざまな事業展開をしてきた株式会社ファミネットの代表取締役会長として80歳を迎えた今も現役で仕事を続けています。先ずは自分のルーツからお話しさせて頂きます。私の父の実家は富山市婦中町という「おわら風の盆」で有名な富山市八尾の近くにありま

す。若林家は代々豪族で現在の当主は48代目になりますが、町の図書館資料で家系を遡ると「六治古」(ろくじこ)という伝説も出てきてどこまで本当なのか随分怪しくもありません。明治45年5月本家45代重信の五男坊として生まれたのが父敏雄でした。

五男坊なので家を継ぐ必要がなかったこともあり、満州へ渡って日本の文化啓蒙を目的にした国策会社「満州映画協会(満映)」の第一期生として働き、その後北京に設立された映画製作会社「華北電影」に移籍、1941年(昭和16年)次男の私が生まれました。なので私の出生地は北京になります。余談ですがこのころ映画女優として活躍していた李香蘭(山口淑子)さんに幼い私が抱っこされて写真を撮ったことが我家の自慢でした。

終戦後の1946年3月父は家族を連れて命からがら日本に引き揚げて来ました。当時大阪で仕事をしていた長兄の縁で大阪の地で職探しをしましたが、前職関係の松竹・東宝などの映画会社からのお誘いはすべて断りました。というのも満映・華北電影では、戦況と共に映画の中身もプロパガンダの色合いが濃くなり、制作だけでなく検閲の仕事も増えていき、自分の意志・心情に反した職務をこなすことに忸怩たる思いを募らせ、少なからず自責の念も抱きながら勤めていたので、映画に対する情熱を失っていたからです。

終戦後は今までと全く違った世界で「人の役に立つ仕事」がしたいと思っていたところに、元外交官から「アメリカでは家庭のエネルギー

にプロパンガスを使っている、これからの日本に必要なのはこのエネルギーだよ!一緒にこのエネルギーを広めよう」と誘われました。「毎日の生活に欠かせない家庭エネルギーを安定的に供給することは、これから日本が発展する上で凄く重要であり、必ず人の役に立てる仕事だ」と確信した父は元外交官を中心に仲間を募り7人でプロパンガスの卸売業を始めました。ゆかりのある北陸三県(富山・石川・福井)を担当し仕事は順調でしたが、代理店を増やす仕事よりエンドユーザーと直接つながることに興味を湧き、直売の方が自分には合っていると考えた父は小売販売の「大阪家庭瓦斯株式会社」を立ち上げました。昭和29年42歳のことでした。

## 父の遺言により 25歳の私が常務

さて、私というと忙しくも生き生きと働く父の姿を見て育ちましたが、事業は長男である兄が承継するものだと思つて特に目指す職業もない学生でした。父からは「将来を考えたら日本でも海外でもいいから大学院に行く方がいい」とアドバイスももらっていたので、大学卒業後にフロリダ州立大学の大学院に留学を決めました。なぜフロリダなのか?と父に尋ねられたときに「留学するのにお金がかかるから、せめて服代がかからない暑いところがいいと思つて」と言うのと「面白いことを言うね」と笑っていたのを覚えています。でもここで大きな問題があったのです。実はわたし英語がとてつもなく苦手で、留学の試験がまたとんでもない難問。ヒアリングはまだ何とかだったので、全然わからなかったのが作文、これが全く書けません。でも、ラッキーだったことにこれがその場で書くのではなく提出するものだったのです。そこで英語の得意な友人に全て書いてもらったら見事合格!やはり持つべきものは友人ですね。お陰で私は無事フロリダ留学が決まりました。生まれて初めての海外です!

# 会社の成長は、子供が親を越えて成長するのと同じ

